

1. 建学の精神に基づき知識・技術・態度を身につけ優れた実践者としての判断力・応用力
問題解決力が行使できる人材を育成する。

- ・毎朝の職員朝礼、ホームルームでの唱和により、日々、建学の精神に立ち返り教育活動を実施することができた。勤労を愛するについてはボランティア活動に出来る限り参加するよう声かけをした。
- ・学生として規律ある行動ができるよう行動美学教育（服装指導、マナー教育など）を行っている。また時間やルールを守ること、報告・連絡・相談をしっかりと行うことなど臨地実習以外にも普段の学校生活でも指導している。
- ・倫理的に正しい判断ができるよう学生指導を行っている。
- ・勤労の精神を培うためボランティア活動への参加を促している。

2. 全学生の資格取得達成のため、授業評価を用いた授業改善、教材研究、研修に努める。

- ・教員全員が授業評価を実施し、教員自身も授業の振り返りが出来て、次回の授業に反映できるようにした。
- ・電子黒板などの活用を実施し、視覚教材を活用した授業展開も実施できた。
- ・デジタルサービスを利用し、スマートフォン、タブレットを使って、国家試験の学習を進めているが、学生によって取り組みに違いがあるので、効果的なサポートが必要である。
- ・校外の研修に数名の教員は参加し自己研鑽できている。
- ・国家試験合格率100%を目指し、クラス一丸となり、国家試験対策に励んだ。その結果、95%の合格となった。その他の資格取得に向けても、奮闘し、多くの学生がすべての資格取得を達成することができた。
- ・学外研修やオンライン研修など8つの研修に延べ13名が参加しました。看護過程や授業設計、臨床判断など学生への教育活動に直につなげられる内容で、実際に授業の改善に役立てることができました。

3. 全教職員が一丸となって教育相談を積極的に行い、学生一人ひとりの理解に努める。

- ・学生個々の問題に対し、保護者と連絡を取りながら話し合い、問題解決に取り組んだ。
- ・日々の対話や学生の悩みに寄り添い、体調確認を常に把握するように努めた。また、カウンセリングを進め、専門家の力もお借りしながら、一人一人の状況の理解に努めることができた。
- ・健康面や精神的な悩みなどを抱える学生に対して、担任を中心に複数の教員が関わった。また保護者とも連絡を取り、学生の状況を伝え問題解決を図りました。
- ・学科会などで情報の共有を図り、共通認識の下で学生の指導を行うよう心掛けています。
- ・悩みのある学生へはスクールカウンセリングの活用を促すなど、専門家の力も借りながらサポートしていきましました。

4. 教員自ら率先垂範し、地域ボランティア活動等への積極的な参加を通して地域に愛される学校づくりに努める。

- ・在籍する学生の数は以前に比べ減っているが、ボランティアの参加を積極的にしている。
- ・出来る限り、地域ボランティアにも積極的に参加するように努めた。地元高校主催のイベントにも積極的に参加し、地域の皆さんとの交流を図るようにした。
- ・令和6年度のボランティアは45件、延べ553名の参加がありました。地域や施設のイベントを支えるために学生ボランティアは大きな力となっています。
- ・小規模校である小湊小学校では運営が困難なプール掃除や運動会などへの参加や支援を行っています。また小湊町内会の清掃活動や小湊敬老感謝の集いなどなど地域に密着した活動で地域に愛される学校づくりを行っており、地域の方も楽しみにしています。
- ・学生数の減少により、ボランティアへの参加について学生の負担増加が懸念されます。

5. 入学時からの進路啓発、進路面談を通して専門職に対する資格意識の高揚を図り、就職100%に努める。

- ・1年次から進路ガイダンスに参加し、病院の概要などを知り就職先について参考にしていました。進路ガイダンスを聞いて就職を決める学生もいた。
- ・看護学科は、保健師学校に1名進学し、就職希望の学生は8月までにほぼ就職が決定した。11月には全員が就職内定した。
- ・看護師国家試験については、合格率96.8%と全国平均90.1%を上回ったが、惜しくも全員合格には至らなかったが、最善を尽くすことができた。
- ・1年時より就職ガイダンスを行い、就職への意識を高めるよう努めた。また、施設見学なども行い、就職に向けたイメージ作りにも繋げていけるよう務めた。
- ・年度初めに行われた進路面談では、資格取得についても話し合い、座学、実技、実習でも意識するよう伝え、その上で現在の進路の方向性について学生と向き合った。
- ・進路ガイダンスでは自分の進路になるかもしれないと考え傾聴することを伝えた。
- ・ハローワークと連携しジョブカードを作成し、ハローワークへの面談も実施した。
- ・地域貢献の一環から、島内就職への促しも行った。
- ・今年度就職率は100%となった。
- ・就職率は100%で不合格だった学生も准看護師として病院に就職しました。1名が保健師学校に進学しました。令和6年度の卒業生は早期から就職活動を行っており、夏までにはほとんどの学生が就職先が決定していました。

6. 教育事務所、地元関係各機関との連携強化に努める。

- ・市内の中学校から職業理解や体験入学などで本校に来校してもらい学校の存在を知ってもらえた。
- ・奄美市中央通り商店街でこどもの職業体験キャリアキッズにブース参加し、多くの子ども達が体験してくれた。
- ・情報の共有に努め、各施設や地元の老施協議会とも連携を取り合うように努めた。また、鹿児島県介護福祉士養成施設の先生方とも連携をとり、学生募集に繋がるように務めた。

- ・教育事務所では、併設校での教員および学生への説明会を開催していただき、併設校での本校の認知度を高めることができました。
- ・定住を促す集いでは群島内の高校教員、奄美市長、奄美市議会、病院や施設関係も参加していただき、島内の医療・福祉の人材不足の中で本校の存在意義などを伝えることができ、連携の強化を図ることができた。
- ・地元関係各機関とは、地区対抗の駅伝や野球などに参加し、また奄美市の成人の集いでも実行委員を務め、あらゆる場面で学生が活躍した。
- ・小湊地区とは、区長さんを通して地域行事やボランティア活動を通して連携しています。市民体育祭や成人祝賀駅伝大会などで地区の代表として学生が活躍しています。
- ・10月5日にアマホームプラザで開催された東京大学医科学研究所主催の市民公開講座「奄美の医療・教育課題を考える」に看護学科2年生が地域の実習での学びを発表し、地域が抱える保健・医療の課題を提起しました。

7. 全職員の協力による学生募集の推進

- ・全職員で体験入学の実施、ガイダンスなどに参加した。参加してくれる生徒や社会人の数が減っているため、体験入学参加者の人数を増やして、入学に繋がられるようにしたい。
- YouTube 動画やInstagramなど SNS を活用したり、ガイダンスも数多く参加したが、入学生数は前年度を下回ってしまった。高校生は都会の大学や専門学校に進学する生徒が多く、社会人入学も減っている。
- ・ガイダンスや体験入学の充実など、積極的に行ったが、目標とする入学定員を達成することが出来なかった。令和8年度からの学生募集停止になったことは非常に残念で無念である。
 - ・昨年度の群島内からの高校生の入学者が11名しか居らず、卒業後の若者の定住にも影響があるのではと感じていたが、今年度は18名となった。しかしまだまだ足りない状況である。
 - ・中学生向けの職業理解も毎年行われるようになり、現在では朝日中学校、龍南中学校などが恒例行事として取り入れてくださっている。早い段階から本校の認知がされるようになったのではないかと感じる。
 - ・出前講座では、各中学校や介護施設などからも依頼があり、行うことができた。
 - ・各種 SNS では、特に Instagram での発信に力を入れ、常に最新の情報を発信し、また身近に感じられるような内容とし閲覧者が入学後の自分をイメージできるように努めた。
 - ・Instagram や YouTube では動画広告にも力を入れており、ターゲットを絞って効果的になるよう発信している。また今年度は様々な立場(新卒、社会人入学、夢が助産師など)の学生のインタビュー動画を作成し、本校に通った場合のイメージを持ってもらえるよう努めた。
 - ・上記のように努力を続けたが、力及ばずこども・かいご福祉学科が募集停止となった。今後は看護学科のみの募集活動となるが、今までの活動に加え、看護に特化した募集活動を続けるよう努めていく。
 - ・島内外の進路ガイダンスに積極的に参加しています。また、体験入学やボランティア、実習または中学生の職業体験学習、イベント等を通して全教員が高校生・中学生へ学生募集を意識したかわりを行っています。
 - ・行事やイベントだけでなく日々の様子の SNS (Instagram 等) での発信が十分ではなかったと思います。